

められる。

(2)は板敷き部に使用された薄い板材である。

木簡の釈読は、山形大学の三上喜孝氏のご教示による。

9 関係文献

秋田県教育委員会『龍門寺茶畠遺跡・向山遺跡』(一〇〇四年)

(高橋 学(秋田県払田柵跡調査事務所))



(1)

東北文字資料研究会は、東北地方の最新の文字資料について情報交換を進め、墨書き土器などを中心とする出土文字資料の新しい研究方法を、文献史学・考古学の両面から議論するための研究会である。昨年一月、第一回研究会を開催した。この資料集には、研究会当日の報告に關わる、三上喜孝・伊藤邦弘・廣瀬真理子・武田和宏の各氏の論考を掲載するほか、村木志伸氏の編集で、一〇〇一年度に刊行された東北地方の報告書から、出土文字資料を集成している。

(頒価一〇〇〇円(送料別) A4判 一六七頁)

問い合わせ先

東北文字資料研究会事務局

〒九九〇一一四二一 山形市上桜田一〇〇

東北芸術工科大学村木志伸研究室 気付

TEL ○三一六二七一〇〇〇(内線三二三)

FAX ○三一六二七一三二五五

東北文字資料研究会発行

『第一回 東北文字資料研究会資料集』の刊行